

### ■パブリックコメント

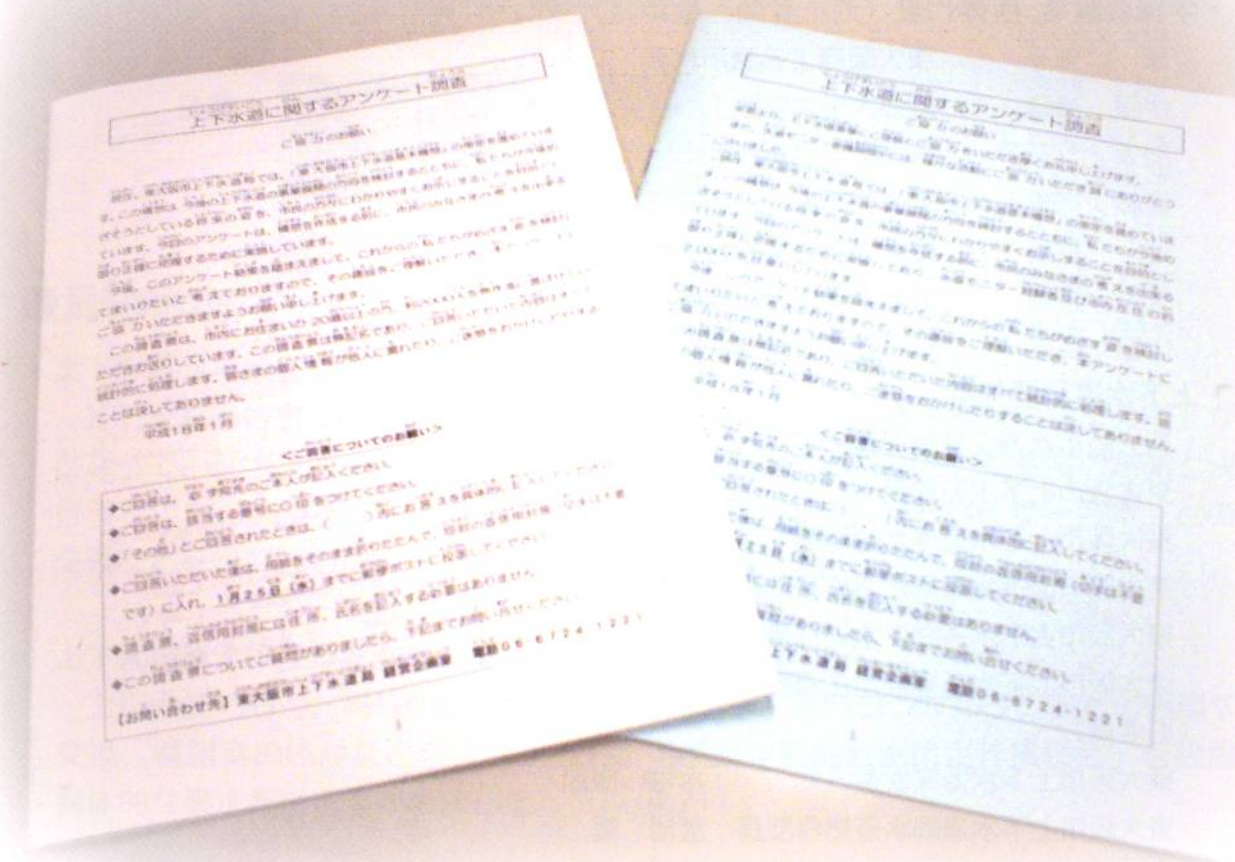
基本構想の策定にあたり、パブリックコメントを実施し、市民から貴重なご意見をいただきました。

- ・実施期間 平成18年5月19日 ～ 平成18年6月16日
- ・意見提出者数 3人
- ・意見件数 6件

### ■アンケート調査

基本構想の策定にあたり、市民が上下水道に求める役割やあるべき姿などの意見を把握するため、市民を対象としたアンケート調査を実施しました。

- ・対象 20歳以上の市民（約2000人を無作為抽出）  
水道モニター経験者
- ・実施時期 平成18年1月10日発送 平成18年1月25日回答締め切り
- ・回収状況 アンケート回収率47.8%



## あしがき

### 基本構想と四字熟語

基本構想では、これからの上下水道事業のあり方について、四つの方向性を示しました。ここでは、この方向性のそれぞれについての水にまつわる「四字熟語」をご紹介します。

まず「市民との協働と質の高いサービス」です。

二つのものがお互いに結び合っていることを、「水乳交融（すいにゅうこうゆう）」と言います。これは、水と乳を一度混ぜあわせると解くことの出来ないことからきています。

上下水道局と市民の関係も、この言葉どおりでなくてはなりません。さらには、市民の参加・協働を推進し、より密接に関わりあうことで相互の納得性を高めることが出来れば、素晴らしいと思います。

二つめは「将来にわたって健全な事業運営」です。

「開源節流（かいげんせつりゅう）」。この言葉の意味は読んで字のごとく、水源地にダムや用水路を建設開発して、水流の調節を図るということですが、転じて財源の途を図ること、支出を抑制、節約して収入の確保を図り、健全財政を確立することにもたとえられています。

上下水道財政も、締めるべきところは締め、進めるべきところを進めるメリハリのある運営を行う必要があります。これは社会や経済情勢の変化への対処のためだけでなく、少々のことではビクともしない安定した事業運営のためでもあります。

三つめの方向性は「安心快適な生活環境の実現と持続可能な発展」です。

これは、「水滴穿石（みずしたたりていしをうがつ）」が一番しっくりくると思います。わずかな水のしたたりでも、絶え間なく落ちることで石にも穴を開けることができる。つまり、小さな物事を続けることで、将来の大きな結果を得ることができるという意味です。上下水道事業は、一朝一夕になるものではありません。将来の姿を正しく誤りなく捉え、その実現に向け、水滴穿石の気概で一歩ずつ地道に進めて行くことが肝要です。

最後は「危機に強いまちづくり、ライフラインづくり」です。

危機は前触れなくやってきます。「臨渴掘井（りんかつくっせい）」喉が渇いてから井戸を掘るというように、事が起こってからあわてて事態に対応することを戒めている言葉です。

上下水道の危機管理においても、いざ危機に直面してから慌てることのないよう、日頃から準備を怠りなくありたいものです。

多少こじつけた感も否めませんが、これらの「四字熟語」を座右の銘として、市民とともに上下水道の発展のために勤しんで参りたいと思っています。